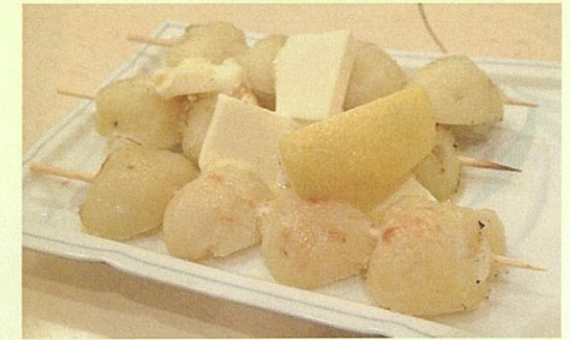


就農4年目、農業は気持ちいい！



台所にいつもある野菜って何でしょう？「ジャガイモ」は必ずその中に入るのではないのでしょうか。今回ご出演いただいた大槻繁之さんは、就農間もない若手生産者で、主に加工用ジャガイモを栽培されています。

専用肥料や土壌診断の活用にどんなメリットがあるのか、また農業に対する思いについてお伺いしました。



結婚を期に就農

「農業を始めて今年で4年目です。結婚を期に地元に戻って就農しました。」大槻さんは30代。新進気鋭の若手生産者で、就農する前は東京の企業の営業マンでした。
「就農すると決めた時の同僚の反応は凄かったです。みんなから『大変だねー。よくやるねー。』と言われました。」



収穫されたジャガイモ。ポテトチップスになります。

「始めた当初は、何を作ったら良いのかわからない。本当にそういう状態でした。そこで北浦肥料さんに相談したところ、畑の面積や農家一年生ということ、加工用ジャガイモの栽培を勧められました。」
主としてポテトチップス用のジャガイモだそうです。食品メーカーと契約を結んで栽培されています。
今では、加工用ジャガイモの栽培面積は2.5ヘクタール。ジャガイモ以外にもキャベツ、ブロッコリー、大根等の栽培も始めました。



今年は春先に霜害に遭い、生育が少し遅れました。

ジャガイモ専用『めぐみコート』

「肥料は『ジャガイモ専用めぐみコート』を使っています。栽培面積が比較的大きく、追肥作業は労力もかかるので、できれば追肥はしたくない。そんな要望に『めぐみコート』は応えてくれました。」
この肥料は、硫黄被覆尿素が配合されている、元肥一発型肥料です。
「キャベツやブロッコリーは、元肥よりも追肥に重点を置いて栽培します。これらの作物に使っている肥料と比べたら、めぐみコートは明らかに肥効が持続し、効いてほしい時に確実に効いてくれます。」

一からの農業だから土壌診断

「最初は、何をどれくらい入れたら良いのが分からなかった。そこで、まずは土壌の状態をしっかりと把握することから始めようと思い、土壌診断を行いました。」
土壌診断は北浦肥料さんに勧められたそうです。



ジャガイモの花。茨城では5月下旬に開花します。

「定期的に土壌診断を行えば、何が足りていて、何が足りないかが分かります。余計に入れる必要がないので、施肥量の削減（コスト低減や、環境に優しいなど）にもつながります。」
「農業を始めた当初から、効率よく栽培したいと思っていました。『めぐみコート』と土壌診断は、栽培の効率化に大変役立っています。」

農業は気持ちいい

「地元で就く仕事の中で、農業が一番可能性があると思います。周りは高齢者ばかりだし、何か新しいことも出ると感じました。」
東京での営業経験も活かせると思ったそうです。
「東京では『大変だねー。』と言われていましたが、実際やってみると農業は楽しいし、気持ちいいです。将来的には直売もしたい。食べてくれる人達と直接つながるような経営をしたいです。」
日本農業が目指す将来像の一つが、大槻さんの農業ではないでしょうか。大槻さん、必ず夢を叶えてください。



■編集後記
「分からないことが多い。だから謙虚に取り組むんです。」大槻さんの言葉です。私、本当に反省させられました。
全国の若手生産者の皆さん。決して初心を忘れず、皆さんがこれからの日本農業をグイグイ牽引してください。
頑張れー！！